



# Let's TAND便利

本質を問う学びへ 教室の学びを変えるためのニュースレター

## 今号の内容

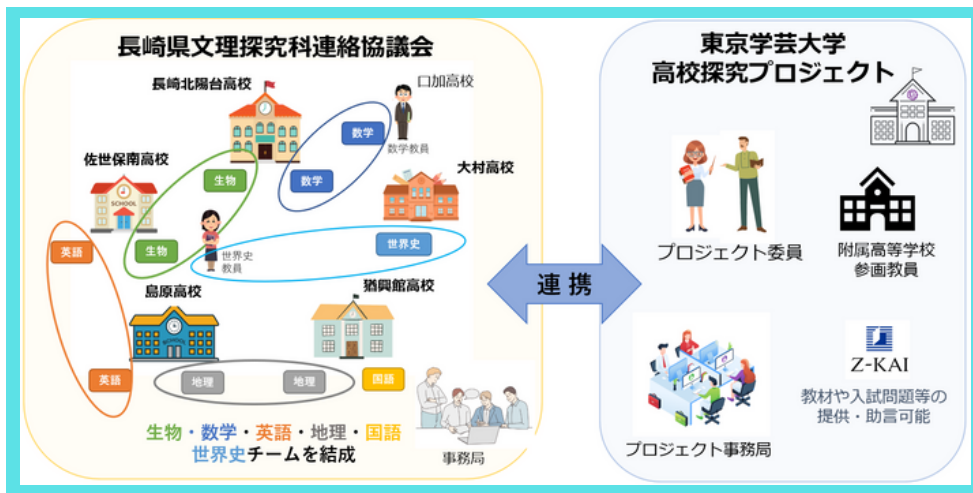
長崎県文理探究科連絡協議会との連携における取り組みの様子

教育センター等指導主事対象オンライン対話<第2弾>の様子

3月4日開催「令和の高校における授業改革」オンラインイベントのご案内



ワークショップ型研究協議会の様子  
ダイジェスト版を公開中 [▶ movie](#)



## 教科における「探究的な学び」の実現に向けた現場主体のチームによる授業研究の取り組み

長崎県では、この4月から文理探究科を新設する5校で、連絡協議会を設置され、高校探究プロジェクトと連携して、授業研究に取り組みました。

昨年1月に、本プロジェクトが公募した連携教育委員会等の案内をご覧になった長崎県立北陽台高等学校の校長先生から「文理探究科を新設するにあたって、日頃の教科の授業の中での『探究的な学び』の実践を促進したい」というご連絡をいただきました。それをきっかけに、5校の管理職や事務局メンバーと打合せを重ね、連絡協議会を設置し、高校探究プロジェクトとの連携による授業研究の取り組みがスタートしました。

連携教育委員会である北海道や大分県は、各教科の指導主事のリーダーシップのもと授業研究に取り組んでいます。それに対して、長崎県は現場の先生が、チームリーダーとなり、メンバーに声をかけ、プロジェクト事務局や委員と連絡を取り合い、研究授業に向けての検討会が開催されてきました。

当初は、現場の多忙感や負担感を感じることも少なくなく、また、研究授業の実施校においても、メンバーのみの取り組みになりがちでした。しかし、徐々に、校内の教科会議で指導案の検討をするようになり、それを通して、日頃の授業を見直す機会や授業での生徒の変容を話題にする機会がもてるようになりました。

11～1月にかけて、各教科で、研究授業を実施しました。県全体に呼びかけ、5校以外の高校からの参加者とともに、授業を観察し、研究協議会を開催しました。研究協議会では、授業研究のプロセスも振り返っていただきました。チームリーダーからは、「探究的な学びの実現に向けては、生徒の実態を把握することが一番重要で、生徒にどのように考えてもらえるか、何を伝えたいかをしっかり考えることが大切だと気づくことができた」「次年度に向けて、今年度のチームメンバーを核として、他の学校から新規メンバーを募って取り組みたい」といった声があがりました。長崎県の5校を中心に、全県へ広がっていく新たな展開が楽しみです。

# 「地域を越えた協働・共創研修モデル」 の実現に向けて ～指導主事としてのエージェンシー～

「真面目な雑談」「横どのつながり」「小さく生んで大きく育てる」を大切に、コミュニティを拡げていきたい。

9月26日に開催した教育センター等指導主事対象のオンライン対話に参加していただいたみなさまからの声をうけて開催したオンライン対話＜第2弾＞では、30名を超える指導主事のみなさまと有意義な時間を共有することができました。

OECD Education 2030のラーニングコンパスをもとに、教育を「エコシステム」ととらえ、各々のエージェンシーを發揮できる環境をいかにつくっていくかをともに考えていきたいという西村リーダーの投げかけでスタートしました。

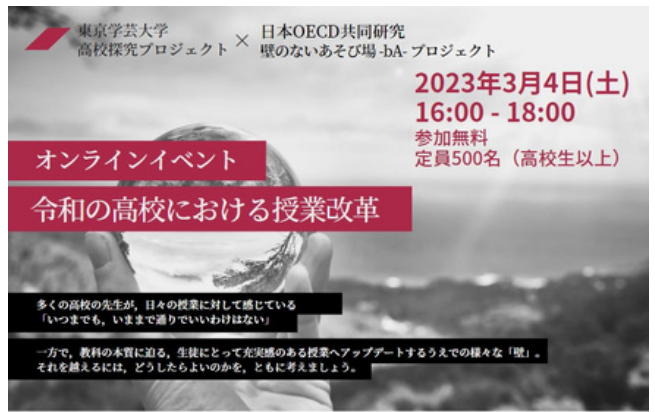
そして、参加者のみなさまには、アイスブレイクとして、「指導主事のエージェンシーとは？」をテーマに語っていただきました。

続いて、9月のオンライン対話をきっかけに、広島県教育センターの指導主事の方が構想された「地域を越えた協働・共創研修モデル」をご提案いただきました。ブレイクアウトルームでは、テーマに分かれて、各県や各学校での課題、指導主事としての想いや悩みを共有し、地域横断型の共創に向けたさらなるアイデアを出し合い、実現に向けた方策を協議しました。

今後も、中・長期的な目標、ビジョンを描いて、地域を越えた共創にむけて今何ができるのか、バトンを次の世代にどのように引き渡すのかについて、みなさまと考える場を創っていきたく考えています。

## ＜参加者のご感想＞

- ・指導主事としてのエージェンシーをどのように発揮するかを考えたいと思いました。全国に多くの同じ考えを持った方がいるのは刺激になります。
- ・「小さく生んで大きく育てる」というお話があったように、コミュニティの形成に向けて、自分ができることを具体的に考えてみたいと思っています。
- ・生徒の学びを活性化、持続的なものにするために、1つのモデルに対して県を越えて検討することが楽しかったです。
- ・対話を通して、指導主事としての学びも、広がり、深まっていくような感覚があり、他県の指導主事の方々との対話に価値があることを実感しました。
- ・自県の先生方が笑顔で授業に向かえるように研修講座を充実させていきたく思います。また第3弾、第4弾と続くことを期待しています。



## 3月4日 共創オンラインイベント 「令和の高校における授業改革」開催案内

高校探究プロジェクトと日本OECD共同研究「壁のないあそび場 -bA-プロジェクト」が共創オンラインイベントを開催します。

多くの高校の先生が、日々の授業に対して「いつまでも、いままで通りでいいわけではない」と感じています。その一方で、教科の本質に迫った、生徒にとって充実感のある授業へアップデートする上での様々な「壁」が存在するも現実です。

OECD教育スキル局シニア政策アナリストの田熊美保氏をお迎えし、OECDによるEducation2030プロジェクトや日本OECD共同研究「壁のないあそび場 -bA-プロジェクト」の動向をもとに、その壁の越え方を考える鍵を提示していただきます。

また、高校探究プロジェクトが開催している各教科における授業研究ワークショップへの参加者の声もお聞きいただき、令和の高校における授業改革に対する壁を越えるにはどうしたらいいのかを、ともに考えていく機会にします。

学びの当事者である高校生の参加も大歓迎です！

日時：2023年3月4日（土）16:00～18:00

定員：500名

形式：Zoomによるオンライン開催

申込：Googleフォームより、お申し込みください。

<https://forms.gle/Bw8ziH2vZZSCPmxxm6>

申込締切：2023年2月27日（月）

タイムスケジュール：

16:00 本イベントの目的・概要説明

16:10 話題提供

OECD教育スキル局 シニア政策アナリスト 田熊美保氏

16:40 プロジェクトの紹介

16:50 高校探究プロジェクト開催の各教科ワークショップ参加者の声

・ 数学科授業づくりワークショップ Dチームメンバー  
ファシリテーター

東京学芸大学附属国際中等教育学校 野島淳司先生  
チームリーダー

立命館宇治中学校・高等学校 酒井淳平先生

研究授業授業者 岐阜県立郡上高等学校 兼森厚太先生

・ 化学授業づくりワークショップおよび滋賀県化学部会  
との共創型授業研究ワークショップ参加者

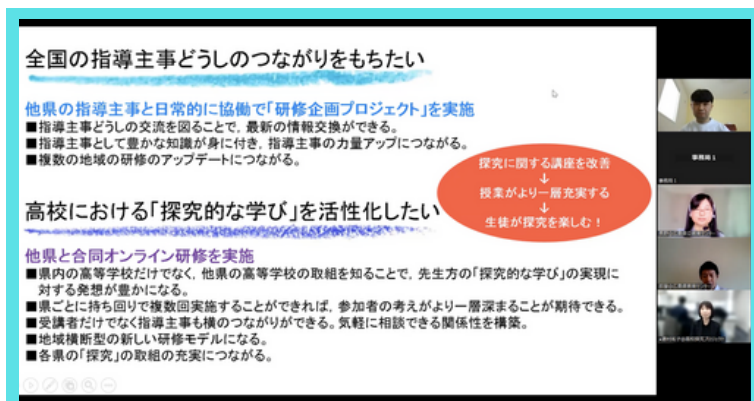
滋賀県化学部会会長 滋賀県立虎姫高等学校 堀浩治先生

17:15 オンライン対話

17:50 クロージング

日本OECD共同研究「壁のないあそび場 -bA-プロジェクト」

HP：<https://gakupei-asobiba.org/>



〒184-8501

東京都小金井市貫井北町4-1-1 東京学芸大学 先端教育人材育成推進機構 高校探究プロジェクト

TEL：042-329-7927 E-Mail：[g-tanq@ml.u-gakugei.ac.jp](mailto:g-tanq@ml.u-gakugei.ac.jp) URL：<https://g-tanq.jp/>

